

「鳩吹山」が自然共生サイトに 認定されました

環境省では、「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」に認定する仕組みを令和5年度から開始しています。

この度、伊那財産区有林である「鳩吹山」が「自然共生サイト」に認定されましたのでお知らせします。

1 自然共生サイトとは

日本では2023年3月に閣議決定した生物多様性国家戦略2023－2030において、2030年までのミッションとして、生物多様性の損失を止め、反転させる「ネイチャーポジティブ」の実現を掲げています。

このネイチャーポジティブの実現に向けた取組の一つとして、環境省では、「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」として認定しています。

2 登録状況(令和7年度9月16日時点)

全国529か所(うち長野県内21か所)

3 鳩吹山における活動概要

- ・実施事業体:株式会社やまとわ
- ・松枯れの伝染前にアカマツを間伐し、林分の更新を図るとともに、その材を経木の材料として有効活用。
- ・出現が確認されているハチクマやクマタカ等の猛禽がこれからも生息できる環境づくりや継続的なモニタリング活動の実践。
- ・山頂付近の生態系豊かな草地エリアの維持保全活動の実践。
- ・民間企業や一般市民向けに森林を通じた環境教育や体験活動を積極的に提供。

4 問い合わせについて

- ・登録内容の詳細や今後の取組予定についてのお問合せは、実施事業体にお願いします。

実施事業体:株式会社 やまとわ 担当 川内 様

電話:0265-78-2121 メール:kawauchi@yamato.co.jp

5 添付資料 ☒ 有 ☐ 無

本件に関するお問い合わせ先

【実施区域・面積】

長野県、 55.26ha

【生態系タイプ】

里山林、人工林、二次草原

【実施区域の状況】

本サイトは伊那市西部の中央アルプス山麓部（標高900m～1300m）に位置しており、財産区有林として地域で管理されてきた。代表的な植生はカラマツやアカマツの人工林であるが、クリやコナラを中心とした広葉樹林も混在している。区域境となっているトリイ沢は地域の水源地となっているほか、サイト内に登山道が整備されていたり、山頂付近ではパラグライダーの離陸場があったりと地域住民と関わりの強い森林となっている。

【目標】

本地の生態系機能をより充実させていながら、既存の木材売り上げによる林業経営だけではない、森の付加価値付けとビジネス創出を目指している。

【主な活動内容】

- ・周辺区域において松枯れ病が進行していることから、区域に伝染する前に積極的にアカマツを間伐し、更新を図る。伐採したアカマツは弊社で作成している“経木”の材料として有効活用する。
- ・本地に頻繁に出現しているハチクマやクマタカ等の猛禽がこれからも生息できる環境づくりや継続的なモニタリング活動の実践。
- ・山頂付近の生態系豊かな草地工リアの維持保全活動の実践。
- ・民間企業や一般市民向けに森林を通じた環境教育や体験活動を積極的に提供している。

【モニタリング計画】

鳥類、昆虫類、植物、両生爬虫類、哺乳類を対象に5年に1度全区域を調査している。そこでみつかった希少種については毎年追跡調査を行っていく。

【实施体制】

株式会社やまとわが、区域内の計画や整備を行っている。株式会社ラポーザには各種調査やモニタリングにを担当していただいている。活動に共感をいただいているKOA株式会社には活動資金を支援いただいている。



【計画期間】

2025年9月～2030年3月